

Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月のおすすめは、PCMCIAスロットに差すだけで32Kデータ通信ができるPHS機能を搭載したカード「TL-DC100」、ウィンドウズCE日本語版を搭載し、パソコンとの連携に優れた携帯情報端末「CASSIOPEIA」、ついにウィンドウズ版が登場した、シンプルな操作で簡単にホームページが作成できる「Adobe PageMill 2.0J for Windows」、ニフティサーブの電子メールも送受信できる電子メールソフト「ClarisMail 1.1」、LANやインターネット経由でニフティサーブが利用できる接続ソフト「NIFTY MANAGER for Windows95 Version 4.00」だ。

今月のラインナップ

カードだけで32Kデータ通信ができる「PHS無線カード」

TL-DC100

[開発元] 三菱電機株式会社



ウィンドウズマシンの携帯端末に適したウィンドウズCE搭載のPDA

CASSIOPEIA

[開発元] カシオ計算機株式会社



老舗ホームページ作成ソフトのウィンドウズ版

Adobe PageMill 2.0J for Windows

[開発元] アドビシステムズ株式会社



インターネットとニフティサーブの両方のメールが管理できる

ClarisMail 1.1

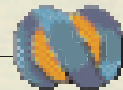
[開発元] クラリス株式会社



インターネット経由での接続やメールへのファイル添付に対応

NIFTY MANAGER for Windows95 Version 4.00

[開発元] ニフティ株式会社



このコーナーの見方



読者プレゼント



商品モニター

このマークが付いた商品を、読者の皆さまにプレゼント&商品モニターとして提供いたします。詳しくは210・211ページをご覧ください。



付録のCD-ROMに収録



市販のハードウェア製品



市販のソフトウェア製品



シェアウェアのソフトウェア



フリーウェアのソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

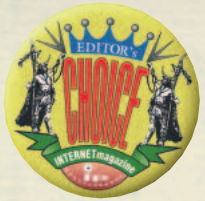


付属品



ファイルサイズ/最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



カードだけで32Kデータ通信ができる「PHS無線カード」登場

PHS無線カード ティーエル ディーシー 100

TL-DC100



オープンプライス



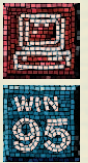
三菱電機株式会社

ここがスゴイ!

- ① PIAFSと DATAに両対応の DATA32をサポート
- ② 電話機不要、カードだけで通信可能
- ③ カードタイプなのに電話も使える

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



モバイルユーザーが待ちに待った電話機不要のデータ通信カード「TL-DC100」が、三菱電機から発売された。カードだけで通信できるから、PHSと接続ケーブルが邪魔にならず、ノートパソコンにセットしてもスマートだ。しかも、DDIポケットのDATA32対応だからPIAFSとDATAの両規格で使うことができる。もちろん、DDIポケットのPHS加入契約が必要になる。

▶ DATA32が今狙い目

DATA32は、PIAFSとDATAの両方に対応したなかなか優れた規格だ。DATAは、既存のISDN同期64Kbpsのアクセスポイントにそのまま32Kbpsで接続できるという便利なものだが、基地局でメディア変換をしてしまうため、接続できるのはインターネットのみ。一方、PIAFSだと、32Kの無手順接続が可能なので、ニフティサーブとの接続もインターネットを経由せずにできる。また、DATAの特徴であるFAX送受信機能やアナログ14.4Kbpsでの接続も利用できる。このように、それぞれの仕様のメリットを使い分けられるDATA32は今のところ最強といえるだろう。DATAはDDDIのプライベート規格であり、各メーカーや電話会社が共同で仕様を策定したPIAFSも無視するわけにはいかない。出遅れた感のあるPIAFSも、徐々にプロバイダーのサポートが広がってきており、使いやすくなってきているのは事実だ。だからこそ、DATA32なのである。

▶ カードだけのスマートモバイル

「TL-DC100」は、PCMCIA(タイプ2)のカードを少し長くした大きさで、ノートパソコンに装着するとカードスロットから5センチほど飛び出す格好になる。端に折りたたみ式の小さなアンテナが付いている以外はとてもシンプルだ。従来のPHS+データ通信カードという組み合わせでは、ケーブルや電話機本体が邪魔になっていたが、このカードなら歩きながらでも通信できる。また、アンテナは、よほど電波が弱いところでない限り寝かしたままでも問題ないので、無理に立てておく必要はないだろう。

▶ イヤホンマイクで電話も

「TL-DC100」にイヤホンマイクを差し込めば、PHS

電話機としても使える。カード本体にはボタン類などは付いていないので、付属の音声通話ダイアルソフトで電話をかけることになる。短縮ダイヤルや電話帳機能など、なかなか多機能だ。パソコンの電源が入っていないと使えないので、実用面では余り役に立たないような気もするが、カードだけで通信できることがウリなのだからいたしかたないだろう。

試用レポート

▶ 転送速度には納得

今回のテストは製品として出荷される前段階のモデルで行ったが、メーカーによると、製品では本体はPCカードスロットに差し込むだけでモデムとして認識されるので、同梱されるドライバーをインストールすれば簡単に設定できるとのことだ。今回の接続テストはDTIのアクセスポイントを利用してインターネットに接続した。WWWブラウジングもスムーズで、通常の32K対応PHSでの通信と何ら変わらない。さらに、IIJのFTPサーバーからファイルをダウンロードし、転送速度を実測してみた。PIAFSのオプション機能であるV.42bis圧縮はかかっていないが、PIAFSの理論値である29.2Kbpsの速度がほぼ確保できているのがわかる(表参照)。

電話機としては、待ち受けできない、アンテナを立てる方向が固定なのでノートパソコンの機種によっては手前に向かってアンテナが立つため邪魔になる場合があるという問題はあるものの、PHSをデータ通信用に使いたいモバイルユーザーには、このPHS無線カードがかなり気になる存在になるはずだ。(梅垣まさひろ)

FTPによるダウンロード速度テスト(10回の平均値、バイト/秒)

	バイナリー (193Kバイト)	テキスト (104Kバイト)
TL-DC100 PIAFS	3,462	3,511
AtermIT55 64k	7,310	7,422



- ① 「TL-DC100」自体がPHSの番号を1つ持つ必要がある。本体の長さは135.6ミリで幅は54ミリ。



- ② PCカードスロットに差し込むだけ、電話機で片手がふさがらない。

TL-DC100



三菱電機株式会社



オープンプライス



0276-52-1124



イヤホンマイク、ドライバーソフト



http://www.melco.co.jp/news/1997/0512.htm



ウィンドウズマシンの携帯端末に適したウィンドウズCE搭載のPDA

カシオペア

CASSIOPEIA(A-51)

¥ 88,000円 (内蔵メモリ4M
バイトのA-50は75,000円)

カシオ計算機株式会社



ここがスゴイ!

- ① 小型で軽量、モノクロディスプレイで長時間の動作が可能
- ② ウィンドウズマシンと操作感が近く、PCとの親和性に優れる
- ③ 対応するソフトウェアが数多くリリースされ、拡張性に優れる

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



● 本体手前右にスタイラス(入力ペン)が格納されている。

待望の日本語版カシオペアの登場だ。ウィンドウズCEを搭載し、キーボード入力、ペン入力を備えたコンピュータがPDAの価格帯でデビューした。電池込みでも重さはわずか370グラムしかなく、閉じたときの大きさは185×94×24.4ミリ。これは東芝のリブレットとヒューレット・パッカード社のHP200LXの間だ。

▶ タッチパネルにもなる液晶ディスプレイ

本体を閉じる際、キーボード部とディスプレイ部を固定するフック類はない。ディスプレイはほぼ180度の状態まで開くことができる。液晶ディスプレイの両脇のデザインが、開いた状態で両手で持ったときに親指にちょうど引っかかり、スリップ防止の役割を果たしている。液晶ディスプレイは480×240ドットのFSTN型の4階調モノクロを採用。このディスプレイはタッチパネルになっていて、キーボード手前右側に收容されたスタイラス(専用ペン)や指で操作ができるが、タッチパネルになっているためか表面の反射が大きく、照明の映り込みが大きく、指で操作したときにディスプレイに付着する油も目立つ。キーボード右上に配置された電源スイッチはディスプレイが開いているときしか操作できないので、閉じている状態で間違って電源が入る心配はない。その左側にある小さな穴がリセットスイッチで、手では操作はできないが付属のスタイラスでリセットができる。その左隣はバックライト点灯スイッチで、通常使用ではバックライトは無点灯だが、このスイッチを押すと一定時間だけ点灯する。初期値は15秒だが1~180秒に設定変更が可能だ。キーボードはQWERTY配列のフルキーで、電卓のキーに似た使用感があり、かつてのポケットコンピュータに近い。ノート型コンピュータのキーボードとはまったく別物である。

本体の右側にはタイプ2のPCカードスロット(PCMCIA)が1つ装備されている。カードのイジェクトボタンは折りたたため、PCカード挿入中でも、本体から飛び出さないので邪魔にならない。キーボード左手前の底部カバーを外すとコンバクトフラッシュカードスロットが隠されている。本体の左側にあるのはRS-232CポートとACアダプター用のコネクタだ。RS-232Cのコネクタは16ピンの薄い形状を採用している。背面にはIrDA対応赤外線インターフェイスや同社のデジタルカメラQVシリーズとのリンクに使う専用のデータ通信コネクタがある。バッテリーは、単3電池2本のほか、メモリーやクロック用のバックアップリチウム電池が必要。入力を10分間行うことを繰り返したときの利用時間は、約15時間が目安となる。PCカードを装着することが多くなると、実際にはその半分ぐらいだった。

▶ メモリーは8Mバイト

CPUには32ビットRISCチップSH3(40MHz)を使い、RAMはA-51モデルで8Mバイト、A-50モデルで4Mバイトが実装されている。ROMは24Mバイトで、ウィンドウズCE日本語版1.01やPocket Word、Pocket Excel、ペイントソフト、辞書ソフト(三省堂 現代国語辞典に基づいた国語辞書/三省堂 必携漢字辞典と三省堂ワープロ漢字辞典を組み合わせた漢和辞書/三省堂 ニューセンチュリー英和辞典に基づく英和辞書/三省堂新クラウン和英辞典に基づく和英辞書)などのソフトが標準で収められている。

試用レポート

▶ なじみやすい操作性

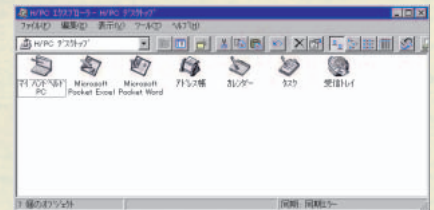
ウィンドウズCEは、ウィンドウズ95のインターフェイスを継承しているため、ウィンドウズ95ユーザーならば、その操作にはすぐに馴染めるだろう。マウスの代わりにスタイラスでカーソルを移動し、タッピング(ペン先で突つく動作)が左ボタンのクリックとなり、Altキーを押しながらのタッピングが右ボタンのクリックとなる。文字入力もキーボードからだけでなく、スタイラスを使ったソフトキーボード(アイウエオ順50音キーなど)や文字認識による入力(MS-IME97 for WindowsCE)が可能だ。文字認識も最近のPDA並みで十分実用に堪えられる。



① WWWブラウザ「Microsoft Pocket Internet Explorer」の表示画面。



② 標準の電子メールソフト「受信トレイ」でのメール作成画面。



③ カシオペアを接続して、H/PCエクスプローラを起動したウィンドウズマシンの画面。ファイルのやりとりはここにドラッグ&ドロップするだけ。

▶ ウィンドウズマシンとの連携はスムーズ

ROMに収められていないアプリケーションは付属CD-ROMに収録されている。インストールするには、カシオペアをCD-ROMドライブ装備のウィンドウズ95マシンと接続し、目的のソフトをダウンロードする。まず、付属のシリアルケーブルで、カシオペアとウィンドウズ95マシンをつなぐ。ウィンドウズマシンがIrDAインターフェイスを備えている場合はシリアルケーブルは必要ない。接続が終わったら、CD-ROMからH/PC（ハンドヘルドPC）エクスプローラをウィンドウズ95マシンにインストールする。これは、エクスプローラ風の通信ソフトでカシオペアのデータのバックアップ/リストア/ダウンロード/アップロードを行う。そして、目的のソフトのインストーラを起動して手順に沿って進めていく。するとH/PCエクスプローラを呼び出して、実行ファイルをカシオペアにダウンロードしはじめる。インストーラがないソフトは、マニュアル操作でH/PCエクスプローラを操作し、実行ファイルをダウンロードすることになる。もちろんダウンロードの代わりにメモリーカードを使って大丈夫だ。逆にウィンドウズCEで書き込んだファイルをメモリーカード経由でウィンドウズ95でも読み出した。

▶ インターネット接続も簡単

インターネットユーザーのお目当てはインターネットソフトだろう。WWWブラウザ「Microsoft Pocket Internet Explorer (PIE)」はダイヤルアップIP接続で使える。まず、シリアルポートを使って試してみたが、ケーブルはクロス配線のためそのままではモデムに接続できないので、クロスアダプターを使って変換して利用した。ダイヤルアップの設定やIPの設定はウィンドウズ95に似ているため、ウィンドウズ95でダイヤルアップ設定をしたことがあれば、マニュアルなしでも設定は可能だろう。これで問題なくアクセスができる。続いて、携帯電話のDoCoMo DATA/FAXCARD 9600 MarkIIのPCカード経由で接続した。装着すると自動で認識され、接続経路をPCカード経由に設定変更するとすんなりつながる。さすがに9600bpsではWWWのブラウジングは遅く、カシオペアのホームページで画像を表示するまでに3、4分かかった。そのうえ、画像が4階調なので見るに堪えない。画像表示に期待することはできないようだ。速度の点ならPHSのPIAFSを使った

高速32Kbps通信が快適だろう。最後にMegahertzの33.6Kbps + イーサネットのマルチファンクションPCカードを使ってみた。認識はされるもののダイヤルアップには失敗した。もちろんイーサネット接続も不可だった。モデムカードもマルチファンクションでは使えない可能性もあり、購入時は要注意だ。なお、同社のホームページ(<http://www.casio.co.jp/hpc/support/pccard.html>)には、動作確認済みPCカード一覧が掲載されている。

次に、「受信トレイ」を使って電子メールの読み書きを試す。PIE同様、外付けモデム、携帯電話用PCカードともに利用できる。ウィンドウが小さいが、メールのヘッダーに場所を取られないように、項目をポップアップメニューにしているなどの工夫が見られる。ファイルを添付することはできないが、別途カシオペアのWWWサイトから提供される電子メールソフトならMIME対応なので、ファイルを添付することもできる。

▶ ウィンドウズユーザーにはおすすめの携帯端末

どのアプリケーションも携帯端末としては十分な機能を備えている。ダウンロードで最新版にアップデートすることも容易で、アプリケーションがすでに組み込まれているPDAと比べると拡張性は高い。標準装備のソフト、付属するソフト、サードパーティーから発売されるソフトの質や量を考えても、携帯情報機器の先頭集団に食い込むことは確実だろう。あとは、ウィンドウズ機とのシリアル接続も含め、インターネットのダイヤルアップ接続や複数マシンとの接続をイーサネットだけでまかないたい。オフィスにおけるLAN環境の普及、また、家庭へのダイヤルアップルーターの普及を見据えて、イーサネット接続が可能になれば言うことはない。ウィンドウズ95/NTとの連携がすばらしいので、すでにメインマシンとしてウィンドウズを使っているなら、カシオペアのようなウィンドウズCEマシンは使える携帯端末になるだろう。

(菊地宏明)



① 本体左側面。左からACアダプター、RS-232Cポート。



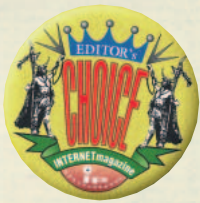
② 本体右側面。PCMCIAカードスロットを搭載、イジェクトボタンは折り畳み式。



③ ディスプレイを閉じた本体。ディスプレイ部は約180度開く。

CASSIOPEIA(A-51)

- カシオ計算機株式会社
- 88,000円(メモリー4MバイトのA-50は75,000円)
- 03-3347-4811
- RS-232Cケーブル、9ピン 25ピン変換アダプター、ACアダプター、電池
- <http://www.casio.co.jp/hpc/index.html>



老舗ホームページ作成ソフトのウィンドウズ版が登場

アドビ・ページミル 2.0J for ウィンドウズ

Adobe PageMill 2.0J for Windows



17,800円 (予定)



アドビシステムズ株式会社

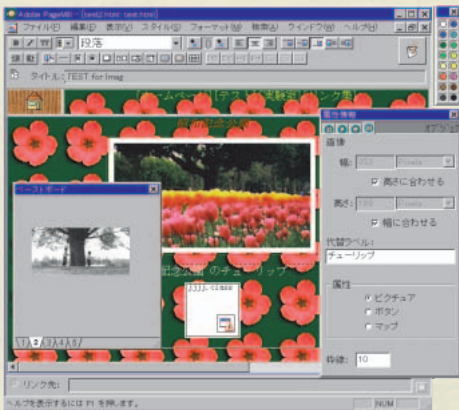


ここがスゴイ!

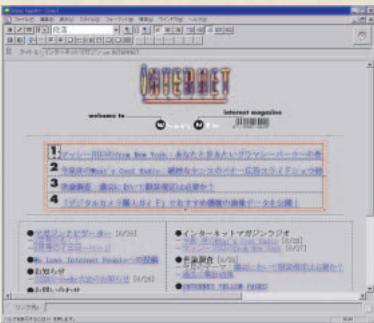
- ① ドラッグ&ドロップが中心の簡単な操作
- ② ワープロ感覚で見たままに編集可能
- ③ フレーム、テーブルに対応

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① PageMillの編集画面。ドラッグ&ドロップで画像などのファイルを好きな位置に配置できる。



② 選択した部分を確認しながらの編集が可能。

マッキントッシュ版が先行発売され、ウィンドウズユーザーは指をくわえている状態だったAdobe PageMill 2.0Jのウィンドウズ版が発売された。基本的な機能はマッキントッシュ版と同じだが、ウィンドウズ版ではFTP機能が新たに追加されている。ホームページ作成の基本を押さえた作りとドラッグ&ドロップによる操作感、HTMLの知識がない初心者にもオススメだ。

▶ ドラッグ&ドロップが基本

ホームページ作成のほとんどの操作は、ドラッグ&ドロップでできる。GIF、JPEG画像は、ドロップすると貼り付けられるし、BMP、DIBファイルを貼り付けるとGIFファイルに自動変換される。HTMLファイルの場合は、ファイル名が貼り付けられてそのページへのリンクが張られる。JAVAのファイルもドラッグ&ドロップで簡単に貼り付けることが可能だ。

ワープロ感覚のテキスト入力、ツールボタンで文字の大きさや色、強調、斜体などを指定できるし、マウスで範囲を選択しドラッグ&ドロップ操作で別の場所に移動させるのも容易だ。もちろんカット&ペーストも可能だ。

リンクの設定は、マウスで範囲を指定してウィンドウ下部の「リンク先」にキーボード入力することもできるが、リンクしたいHTMLファイルをエクスプローラからドラッグ&ドロップしてもよい。

このように、ほとんどの操作が「マウスだけでできる」というのがPageMillの大きな特徴になっており、HTMLタグやキーボードに不慣れな初心者でも少し練習すれば簡単に使えるようになるだろう。

▶ フレーム、テーブル対応も意欲的

フレームは、ページを縦横に分割していくイメージで操作する。フレームを個々に編集するのではなく、ページ全体を見ながら編集できるので、最終的な出来上がりに近い状態での作業となり、フレームの編集作業の煩わしさから解放される。もちろん、フレーム枠の移動もブラウザを操作している感覚と同じだ。フレームをなくしたいときは、枠を移動してフレームを潰せばいいだけ。

テーブル(表)も、ワープロ感覚で大きさを指定して挿入できる。表のサイズ変更も、「つまんでズルズル」と移動するだけ。セルをドラッグ&ドロップで別の場所に移動させて、独立したテーブルにすることもできる。行や列の挿入と削除は、ツールボタンが用意されている。もちろん、背景色の設定も可能だ。これらの細かな設定は、「属性情報」と呼ばれるウィンドウ上ですべて管理される。現在選択しているオブジェクトの状態が属性情報ウィンドウに表示され、編集できるのだ。

▶ プレビューモード

プレビューモードもなかなかよくできている。アニメーションGIFが表示できるし、Adobe AcrobatでおなじみのPDFファイルやMPEGムービー、QuickTimeムービーなど、ネットスケープのプラグインを使ったさまざまな形式のデータにプレビューモードが対応してくれるのだ。ブラウザの起動もメニューから簡単にできるので、細部の詰めやJAVA、JAVAスクリプトの最終確認の操作もスムーズに行える。

▶ マックの影ちらほら

全体を通しての操作感は決して悪くないのだが、マック版と操作性が統一されているためか、ウィンドウズらしい操作が少ない。たとえば、ウィンドウズではマウスの右ボタンクリックでオブジェクトのプロパティを編集するという操作がよく使われているが、それがないのでウィンドウズユーザーは不便に感じるかもしれない。また、リンク先を指定するテキストボックスの横に、ファイルのディレクトリーを指定するときによく使う「参照」ボタンがないというのもなんだか気持ち悪い。マックユーザーには違和感ない操作も、ウィンドウズユーザーには慣れが必要だ。ほかに、JAVAスクリプトの編集や、<SUP><SUB>タグ(文字を上下させる: 333ページ参照)に未対応などが、細かな点だが気になったところだ。

一方、マック版にはなかったファイルのアップロード機能は非常に使いやすい。SiteMillのウィンドウズ版が出ていない現状では嬉しい対応だ。

なお、今回評価したのは 版だったもので、製品版では仕様変更があるかもしれないことを付け加えておく。(梅垣まさひろ)

Adobe PageMill 2.0J for Windows



アドビシステムズ株式会社



17,800円 (予定)



03-5423-1860



http://www.adobe.co.jp/product/pageMill/pagemill.html



インターネットとニフティサーブの両方のメールが管理できる

クラリスメール 1.1

Clariss Mail 1.1

ここがスゴイ!

- ① 複数のインターネットメールアカウントをサポート
- ② ニフティサーブの電子メールをサポート
- ③ 充実した自動処理機能

【ユニークさ】
 【コストパフォーマンス】
 【使いやすさ】
 【期待度】
 【総合】

クラリス社からクラリスメール1.1が発売された。ニフティサーブの電子メールをサポート、マルチアカウントへの対応、豊富な自動処理機能といったように、すでにApple Internet Starter Kit 1.2にバンドルされているLite版から大幅な機能アップをして製品版として登場だ。

▶ 複数のメールアカウントを使っていてに朗報

クラリスメール1.1はマルチアカウントに対応している。複数のメールアドレスに届くメールを1つのメールソフトで管理することができる。また、これまでのインターネット用のメールソフトでは扱えなかったニフティサーブの電子メールも、インターネットのメールと同様に送受信できるようになったのは嬉しい。あらかじめニフティサーブのユーザーID、アクセスポイントなどを設定しておけば、インターネットのメールと同じ感覚でニフティサーブのメールも扱うことができるのだ。

▶ 充実した自動処理機能

受信したメールは、送信アドレスやサブジェクトなどのキーワードをもとに、指定したフォルダーにそれぞれ自動振り分けしたり、優先順位を設定して色分けしたりすることができる。フィルタ機能では、さらに特定のメールを転送したり、定型文を自動返送したりすることも可能だ。自動接続の設定も、一定時間おきだけでなく、アカウント別に曜日・時刻の指定も可能となっている。

▶ クラリスメール独自のすっきりとしたインターフェイス

クラリスメール1.1は「ブラウザ」と呼ばれるメインの画面で「受信箱」、「送信箱」、「整理箱」、「アドレスブック」をタブで切り替えるすっきりとしたインターフェイスになっている。「整理箱」には「開封済」、「送信済」、「ごみ箱」の各フォルダーがあらかじめ用意されており、自動振り分け用のフォルダーも作ることができる。ただ、EUDORAのようなフォルダーの階層化には対応していない。

▶ 実際のメールの送受信

実際にメールを受信すると、振り分け設定したものは設定した「整理箱」の各フォルダーに、それ以外のメールは「受信箱」に入ることになる。「受信箱」には自動振り分けされた内容が「自動保存ログ」として保存されるので、「受信箱」を開くだけで受信したメールの内訳が分かる。振り分けられた各々のメールは「自動保存ログ」を開くと表示される各メールのサブジェクトをダブルクリックすることで表示することができる。

しかし、この「自動保存ログ」、「整理箱」が非常に使い勝手が悪い。「受信箱」にあるメールならば、Fromの左横にある「+」のアイコンをクリックすることで自動的にFromアドレスをアドレスブックに取り込む非常に便利な機能があるのだが、「整理箱」に入ったメールを開いてもアドレスの自動取り込みはできない。また、添付ファイルも「受信箱」では認識してくれるが、「整理箱」から開くと認識されない。「自動保存ログ」を開いた場合も「整理箱」と同じようになるので非常にやっかかった。また、「整理箱」の各メールにメールを読んだかどうかのマークが付かないのも非常に不便である。

メールの送信では、アドレスブックにあるアドレスは最初の1~2文字を入力すれば自動補完が効くので便利だ。メール返信の際の引用は、あらかじめ範囲を選択しておかなければ何もされないの注意が必要だ。

▶ EUDORAのメール取り込みには非対応

最近のメールソフトでは、もはや定番の機能になっているクlickプルURLは、Internet Configで設定しないと利用できない。またメールの保存は1メール1ファイル方式をとっている。さらに、EUDORA Proのニックネームファイルは取り込んでくれるものの、メール自体を取り込む機能がないためEUDORAからの移行は困難である。

クラリス社が出すメールソフトということでもかなり期待していた分、厳しい評価となったが、多くの人がインターネットのメールアドレスとニフティサーブのアカウントを両方持っている中で、ニフティサーブの電子メールに対応したことなど評価できる点もある。1.1が出たばかりだが、今後のバージョンアップで技術的にもこなれて、使いやすいメールソフトになってくれることを期待する。
 (梅垣まさひろ)

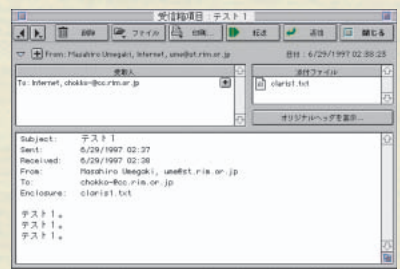
9,900円(9月末日までは発売記念特別価格6,900円)

クラリス株式会社

評価版CD-ROM収録先
 Mac CLARISmail



①「ブラウザ」画面。ニフティサーブのアカウント宛てのメールも確認できる。



②受信したメールを開いているところ。ファイルが添付されていることが分かる。

Clariss Mail 1.1

クラリス株式会社

03-5210-9022 (FAX)

6,900円(9月末日までは発売記念特別価格6,900円)

http://www.clariss.co.jp/



インターネット経由での接続やメールへのファイル添付に対応

ニフティマネージャー for ウィンドウズ95 バージョン 4.00

NIFTY MANAGER for Windows95 Version 4.00



ここがスゴイ!

- ① インターネット経由でニフティサーブに接続できる
- ② メールでMIME形式の添付ファイルが送受信できる
- ③ 無料で配布されている

おすすめ度

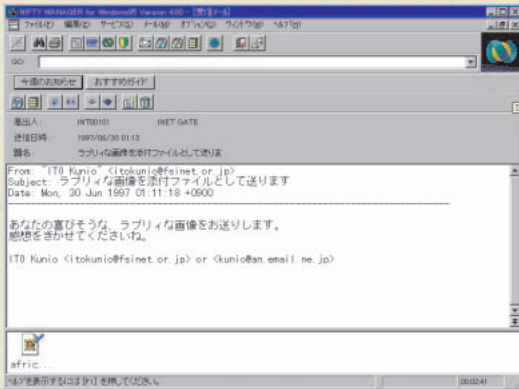
- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



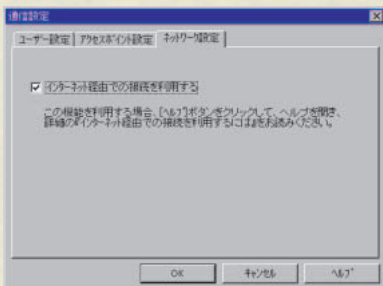
無料



ニフティ株式会社



① インターネットから送られてきた添付ファイル付きのメール。添付ファイルはアイコンで表示される。



① このチェックボックスをオンにするだけで、インターネット経由での接続が可能となる。

6月18日から「NIFTY MANAGER for Windows95」の提供が開始された。国内最大のパソコン通信サービスであるニフティサーブを簡単なマウス操作だけで利用できるようにするのがNIFTY MANAGER。今回のバージョンアップの目玉は、インターネット経由での接続とMIMEメールへの対応だ。そのほかキャビネットの検索機能の追加など、使い勝手もよくなっている。

▶ インターネット経由での接続に対応

これまでNIFTY MANAGERからニフティサーブに接続するにはFENICSやHyperROADというニフティサーブ用のネットワークを経由する必要があったが、今回からインターネットを経由しての接続も可能となった。ダイヤルアップ接続や専用線接続でインターネットに接続できる環境があるなら、あとは「通信設定」ダイアログで「インターネット経由での接続を利用する」のチェックボックスをオンにするだけでよい(図参照)。インターネットに接続した状態で、NIFTY MANAGER上で接続ボタンをクリックすると、ニフティサーブへの接続が自動的に行われる。ダイヤルアップ接続の場合は、自動的にダイヤルアップが行われるようになっており、接続の際にIDやパスワードのチェックが行われるようになっている。もちろん会員でなければインターネット経由でもニフティサーブへ接続できないのは言うまでもない。

▶ MIME形式の添付ファイルのやり取りも可能に

従来は困難であったインターネットとニフティサーブの間のバイナリファイル(画像やワープロのデータなど)のやり取りが容易になったのも大きな変化だ。これはNIFTY MANAGERがMIME(Base64)というメールの規格に対応したことによる。

メールにファイルを添付したいときは、送信ウィンドウで「クリップアイコン」をクリックして添付するファイルを指定するか、送信ウィンドウにファイルをドラッグ&ドロップする。添付ファイルを受信すると、受信ウィンドウの下に添付ファイルのアイコンが表示され、ダブルク

リックするとファイルの内容が表示される(ただし該当するアプリケーションが必要)。

ニフティサーブ内のバイナリメールは3Mバイトまでのファイルが送信できるが、MIMEメールでは1Mバイトまでとなっている。添付ファイルを添付用の形式に変換するときにファイルのサイズが増えるため、実質的には700Kバイト程度が上限ということになるようだ。

▶ やや向上した使い勝手

大きな変更点はこれぐらいだが、部分的にも使い勝手がよくなっている。たとえばキャビネット内のメッセージに対してキーワードを指定して検索できるようになったし、パスワード変更や課金の支払方法の変更の操作がGUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェイス)対応になり、わかりやすくなったことなどが挙げられる。

▶ インターネットと併用なら絶対おすすめ

さて、NIFTY MANAGERがインターネット経由接続に対応することの最大のメリットは、通信の費用を節約できる点にあるだろう。ニフティサーブへアクセスするには電話料金とニフティサーブの接続料金の両方がこれまででは必要だったが、専用回線を使用しているなら当然電話代はかからないし、ダイヤルアップ接続でも、すでにテレホーダイでプロバイダーを利用している場合などは、その電話番号でそのままニフティサーブが使える。

ニフティサーブの課金のほうは、インターネット経由で接続した場合はFENICS ROAD2の料金(300~2400bpsの回線と同一料金)が適用される。つまり「通常料金」を選択している会員なら1分8円、「高速対応料金」なら1分7円(月に3時間を超えた場合)となる。プロバイダーと28.8Kbpsで接続している筆者の環境ではニフティサーブの実質的な通信速度はROAD4~5相当だった。その速度がROAD2の課金で得られるのだから、速度面でもメリットは大きい(ただしインターネット経由の実効速度は状況に応じて変化するので一概には言えない)。

ニフティサーブとインターネットを併用している場合や、ニフティサーブとインターネットの間で添付ファイルのやり取りをしたい人には、ぜひこのNIFTY MANAGERをおすすめしたい。(いとうくにお)

NIFTY MANAGER for Windows95 Version 4.00



ニフティ株式会社



無料



0120-508-502



http://www.niftyserve.or.jp/nim/index.htm



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp